平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　飛幡　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学，理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，数学，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

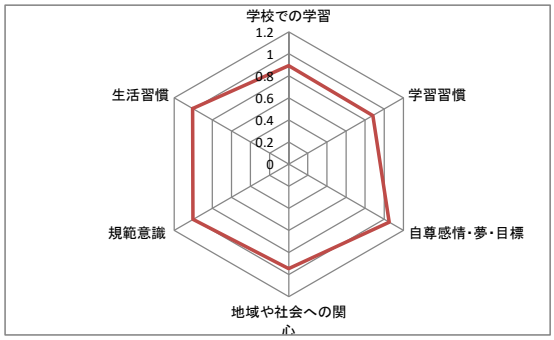
(1) 全国・本市の学力調査（国語A・B，数学A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	○解答をする際に、どういう条件が提示されているのかを正確に捉えられていない生徒が多い。「条件をよく読み解けていない」「書かれた条件をよく理解できない」この両面が考えられる。また、普段の授業から意見を述べる際には、因果関係・根拠の提示・反駁・補足、その他何を述べるべきなのか等を発問の際に明確化し、指導支援をする必要がある。また、国語Aの力の向上には、語彙力への向上心を高めるために、授業では常に辞書を携帯させ、「引かせる指導」から「自ら引く姿勢」へとつなげていけるように、指導の工夫を行っていく。	全国平均正答率との比較：下回っている
	よくできた問題	・5一　本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	・7二 「それでは」の働きとして適切なものを選択する　・8五 作品への助言として適切なものを選択する ・8六3 『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	
国語B	全体的な傾向や特徴など	○会話や話合いを場面とした問題から見えてくるものは、人の意見を聞き、その人の意図を正確に捉えた上で自分の意見を述べる力に課題があるということである。これも、話合いの場面の様子等、総合的に判断しなければならないが、建設的に話合いを構築していく力に課題があると考えられる。例えば、司会者の会議の進め方を観察すると、マニュアルから外れた議事進行の修正や質疑の不整合などに対する適切な対応ができない場面が見受けられる。今後、一斉の小グループでの話合い活動だけでなく、一グループでの話し合いを観察する活動も必要であると考える。さらに、論理性を高めるために質の高い文章にも数多く触れて、実際に書いたり読んだりする機会を増やすことが重要だと考える。現在、新聞コラムの視写を積極的に取り入れるようにしている。	全国平均正答率との比較：上回っている
	よくできた問題	・1一　グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する ・3三　話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	
	努力が必要な問題	・2三　ロボットに期待することを述べて、発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	
数学A	全体的な傾向や特徴など	○全国平均正答率をやや下回っているが、「指数を含む四則計算」、「単項式どうしの乗除の計算」などの基本的な計算は比較的出来ている。また、「資料の活用」や「確率」の単元も全国平均を上回っている。ただ、「数の大小関係を不等式で表す」や「等式の変形や方程式」など、数量の関係を等式や不等式に表したり、その性質を利用して問題を解いたりすることに課題がある。すべての単元において数式や図形の本質を理解し考察する力に課題が見られるので、授業の中でもっと考えを深める活動を増やしていく。	全国平均正答率との比較：下回っている
	よくできた問題	・12　歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ（一次関数の意味を理解している）	
	努力が必要な問題	・2(4)　等式をaについて解く（具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる） ・10　点（−2、3）の座標の位置を座標平面上に示す（座標平面上に点の位置を示すことができる）	
数学B	全体的な傾向や特徴など	○全国平均正答率をやや下回っているが、問題の意図を理解し、グラフなどから必要な情報を読み取り、処理する能力は付いている。しかし、「問題解決の方法を数学的に説明する」や「判断の理由を説明することができる」など、頭の中にある考えを順序良く的確に文章化したり説明する能力に課題が見られる。また、授業の中でも考えたことを発表することはできるが、文章に書くことができていない生徒が見受けられる。今後、積極的に説明する問題や考えを文章化する問題に取り組んでいく。	全国平均正答率との比較：下回っている
	よくできた問題	・1(2)　与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる。 ・2(1)　問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	
	努力が必要な問題	・4(2)　発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	○正答率は全国や全市と同程度ではあるが、理科への興味・関心がやや低い傾向が見られる。 ○実験観察の技能は上回っているものの科学的な思考や表現能力に課題が見られるため、正答に結びついていないのではないだろうか。 ○正答率の平均は同程度であるが、度数分布を分析すると、正答数の少ない生徒の数が多い傾向にあるため平均が伸びていない。これは理科への興味・関心と呼応していると思われる。	全国平均正答率との比較：同程度
	よくできた問題	2(2)濃度が異なる食塩水のうち、濃度が低いものを指摘できる。 2(2)濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量%濃度のもの指摘できる。 4(2)炎の色と金網につく煤の量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる。	
	努力が必要な問題	1(2)テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる。 2(4)1つの要因を変えるとそ他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。 4(3)化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○昨年度の課題であった「自尊感情・夢・目標」のすべての項目において全国平均を上回ることができた。今後も「新版いのち」、「私たちの道徳」等を活用して、特に「A−4、希望と勇気、克服と強い意志」「A−3、向上心、個性の伸長」「C−13、勤労」を中心に道徳授業の改善、意識の向上を図る。
○進路学習を通じて、自己の将来の夢や目標を立てさせ、自己の進路（高校進学）に活かす。
○家庭学習の取り組みが全国平均に比べかなり不足しているが、昨年度よりは向上している。学力向上委員会や教科部会で、宿題の在り方や、家庭学習の推進に向けた取組などをさらに実践していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○指導主事要請授業やモデル授業を実施し、校内研修を通じて、組織的な授業改善を行っていく。
○職員室前に学習用テーブルを配置し、放課後や昼休みを中心に生徒が質問や学習ができる環境をつくる。
○各学年の実態に応じて、朝自習コンクール等を実施することで関心・意欲を高め、基礎学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校通信、学級通信などをさらに充実させ、学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子供と親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。また、積極的に学校ホームページを活用し、「家庭学習チャレンジハンドブック」や各学年の取組等を紹介し、保護者への学力向上に向けた啓発活動を行う。